

年 組 名前:

# 地域の学び拠点始動

## 都留文科大が新棟

都留文科大が地域に開かれた学びの場として整備した、新棟「THMC（都留・ヒューマニティーズ・センター）」の利用が本格的に始まっている。充実したデジタル機器設備を活用して、学生らがワークショップなどに取り組み、今後、地域の子どもたちや住民らを対象とした催しを増やしていく予定だ。（赤池悠）

## 最新デジタル機器を体験

4月に供用が始まったTHMCは、講義棟として活用するほか、幅広く市民に開放する拠点として整備された。3階の演習室「デジタルcommons」では、拡張現実（VR）映像が見られる端末やレーザーカッター、3Dプリンターなど最新のデジタル機器の操作を体験できる。2階には、カウンター21席や2人がけの机12台を備え、飲食品などを持ち込んで市民が憩いの場として使えるスペース「カフェ commons」がある。

デジタルcommonsを管理している吉岡卓准教授（48）によると、THMCにはVR端末を40台、3Dプリンターは4台設置。360度撮影できるカメラやスキャナー、電子黒板、動画編集ソフトなども完備する。吉岡准教授は「文系大学でこれだけの設備がそろっているところはないと思う」と誇る。

22日には、同大国文学科で情報通信技術（ICT）機器を使った教育について学ぶ3年生4人がデジタルcommonsで、Web上のデザインソフトを使ってシール作りを体験するワークショップを開催。参加した学生計12人に、電子黒板やプリンターを使いながら説明した。教員を志す人にICT機器に慣れてもらう目的で、企画した望月七聖さん（20）は「デジタル機器が豊富にあって、活動するのに便利」と話している。

23日には、都留興譲館高の生徒たちが訪問して、吉岡准教授らの案内でVRを体験した。今後、地域住民にもデジタル機器を体験してもらうような催しを順次開く予定という。吉岡准教授はTHMCを拠点に、世代を超えた交流が生まれればいいと話している。

(2023年5月29日付 山梨日日新聞 16面)

問1 都留文科大の新棟「都留・ヒューマニティーズ・センター（THMC）」は、何をやる場として

整備されましたか。

問2 THMCには、どのような最新デジタル機器が完備されていますか。

問3 吉岡准教授は、THMCをどのように活用していきたいと考えていますか。